

【指導事例1】小学校自閉症・情緒障害特別支援学級（1年児童）



本事例では、自立活動の時間において、どのような指導目標を立て、授業づくりを進めていけばよいのか迷っていましたが、そこで、学習指導要領解説自立活動編に示されている「流れ図」*1や教育センターの研究物を参考にしながら、対象児童の実態から考えられる具体的な指導内容を設定しました。

*1：学習指導要領解説自立活動編 P28「流れ図」

対象児童の実態

- ・ 診断名：自閉スペクトラム症
- ・ 特別支援学級では、国語や算数、自立活動の時間を中心に個別指導を行い、その他の教科等は交流学級で学習している
- ・ 生活面では、係活動や日直の仕事に意欲的に取り組み、友達との関わりは良好である
- ・ 学習面では、書くことや自分の思いを伝えることに対する苦手さが見られる
- ・ 活動に対する見通しをもつことができると、安心して集団活動に取り組むことができる
- ・ 初めての活動には不安が生じやすく、その場を回避する様子が見られる
- ・ 自分の特性理解についての認知が未熟なために、苦手なことを克服したり改善したりする態度はあまり見られない
- ・ 自分の気持ちや考えを身近な大人に伝える手段が十分に身に付いていない



○ 対象児童の実態から設定した自立活動の指導目標

長期の指導目標（1年間の目標）

- ・ 自分の困ったことや不安な気持ちを教師に伝え、安心して活動に参加することができる

短期の指導目標（2学期）

- ・ カードを用いて自分の気持ちを示したり、不安なときは、教師に助けを求めたりすることができる



○ 指導目標を達成するための具体的な指導内容

ア 学校生活では、時間割や課題に沿って学習することができ、係や当番の仕事など、自分の役割を理解して活動することができる

【健康の保持(4)、心理的な安定(2)、環境の把握(3)】

イ 生活上の様々な場面で、自分の気持ちや他者の気持ちを理解し、自分の困ったことや不安な気持ちを適切に表現して教師に伝えることができる

【心理的な安定(1)(2)、人間関係の形成(2)、コミュニケーション(5)】

ウ 好きな活動を通して、友達や教師と楽しく関わる経験を積むことができるとともに、作業の手順や教師の指示に従って自ら活動に取り組むことができる

【心理的な安定(1)、身体の動き(5)】

(7) 指導内容と学習の場面を
決める

(ア) 指導内容と学習の場面を決める

選んだ具体的な指導内容

イ 生活上の様々な場面で、自分の気持ちや他者の気持ちを理解し、自分の困ったことや不安な気持ちを適切に表現して教師に伝えることができる

【心理的な安定(1)(2)、人間関係の形成(2)、コミュニケーション(5)】



今回の授業では、具体的な指導内容としてイを選びました。
2学期の指導目標を基に、対象児童が、困ったことや不安な気持ちを他者に伝えることができるようにするために、自己の感情への気づきを促し、自分の思いを伝える力を身に付けさせたいと考えました。

step1 選んだ具体的な指導内容を「(児童が) ~できる」で区切って分ける

「~できる」で区切って分ける

生活上の様々な場面で、 / 自分の気持ちや他者の気持ちを理解し、 /
自分の困ったことや不安な気持ちを適切に表現して教師に伝えることができる



『~できる』で分けた指導内容

- ・自分の気持ちや他者の気持ちを理解することができる
- ・自分の困ったことや不安な気持ちを適切に表現して教師に伝えることができる



具体的な指導内容の文章を「~できる」で区切って分けることで、指導内容を整理することができました。

step2 『~できる』で分けた指導内容を、どの学習の場面で指導するのかを決める

『~できる』で分けた指導内容	学習の場面
自分の気持ちや他者の気持ちを理解することができる 【心理的な安定(1)、人間関係の形成(2)】 今回取り上げた『~できる』で分けた指導内容と学習の場面	・特別支援学級（自立活動の時間）
自分の困ったことや不安な気持ちを適切に表現して教師に伝えることができる 【心理的な安定(1)(2)、コミュニケーション(5)】	・特別支援学級（自立活動の時間） ・特別支援学級（学習や生活の場面） ・交流学級（学習や生活の場面）



この2つの『~できる』で分けた指導内容は、どのような学習の場面で指導できるのかを考えました。今回の授業では、『~できる』で分けた指導内容の「自分の気持ちや他者の気持ちを理解することができる」を取り扱うことにしました。特別支援学級で行う自立活動の時間に個別に指導することで、自分の気持ちや他者の気持ちへの気づきが深まると考えました。

(7)指導内容と学習の場面を
決める

(1)授業内容を
考える

(1) 授業内容(学習内容, 題材と目標等)を考える

step1 「『～できる』で分けた指導内容」について, どのような学習内容が考えられるか, 対象児童の実態から考え, 授業で取り扱う学習内容を選ぶ

「『～できる』で分けた指導内容」

「自分の気持ちや他者の気持ちを理解することができる」

課題分析

どのような力を身に
付ける必要があるか
考えます

学習内容

- ・表情絵カードを見て, いろいろな気持ちがあることを知る
- ・身振りや言葉を使って, いろいろな気持ちを伝える
- ・経験したことを, 気持ちを表す言葉を使って話す



今回は, 対象児童の発達の段階や, これまでの学習や生活の経験を踏まえ, まずは, 人にはいろいろな気持ちがあることを知ることが大切だと考えました。また, この学習を通して, 自分の気持ちを人に伝えるよさを味わう経験を積むことも大切だと考え, 上記のような学習内容を取り扱うことにしました。

他にも次のような学習内容が考えられます

案1

- ・気持ちを表す身近な言葉を集める
- ・気持ちを表す言葉の仲間分けをする
- ・気持ちカードを作る

案2

- ・自分の気持ちと友達の気持ちの違いに気付く
- ・状況絵を見て, どのような気持ちなのかを考える

step2

選んだ学習内容について、題材と目標等を考える

学習内容

- ・表情絵カードを見て、いろいろな気持ちがあることを知る
- ・身振りや言葉を使って、いろいろな気持ちを伝える
- ・経験したことを、気持ちを表す言葉を使って話す

対象児童の実態は？（児童観）

活動に対する見通しをもつことができると、安心して取り組むことができるなあ。自分の気持ちを伝えることは苦手みたいだなあ。

どのような題材にする？（題材観）

絵本や表情絵カードなどを教材に使うと、学習内容が分かりやすいだろうなあ。対象児童は学校探検活動が好きだから、授業の中に体験的な活動を取り入れると興味をもって取り組むことができそうだなあ。

どのように指導する？（指導観）

授業の組立てをパターン化すると安心して取り組むことができそうだなあ。学習活動では、実際の生活場面から、そのときどのような気持ちになるのかを思い出させるようにしよう。対象児童とのやりとりを丁寧に行うことで、自ら伝えることに自信をもたせていきたいなあ。



○ 題材名

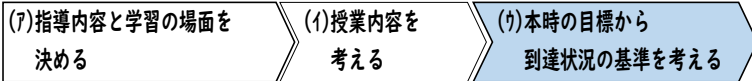
「気持ち探検をしよう」

○ 題材の目標

人にはいろいろな気持ちがあることが分かり、自分の気持ちを人に伝えようとする

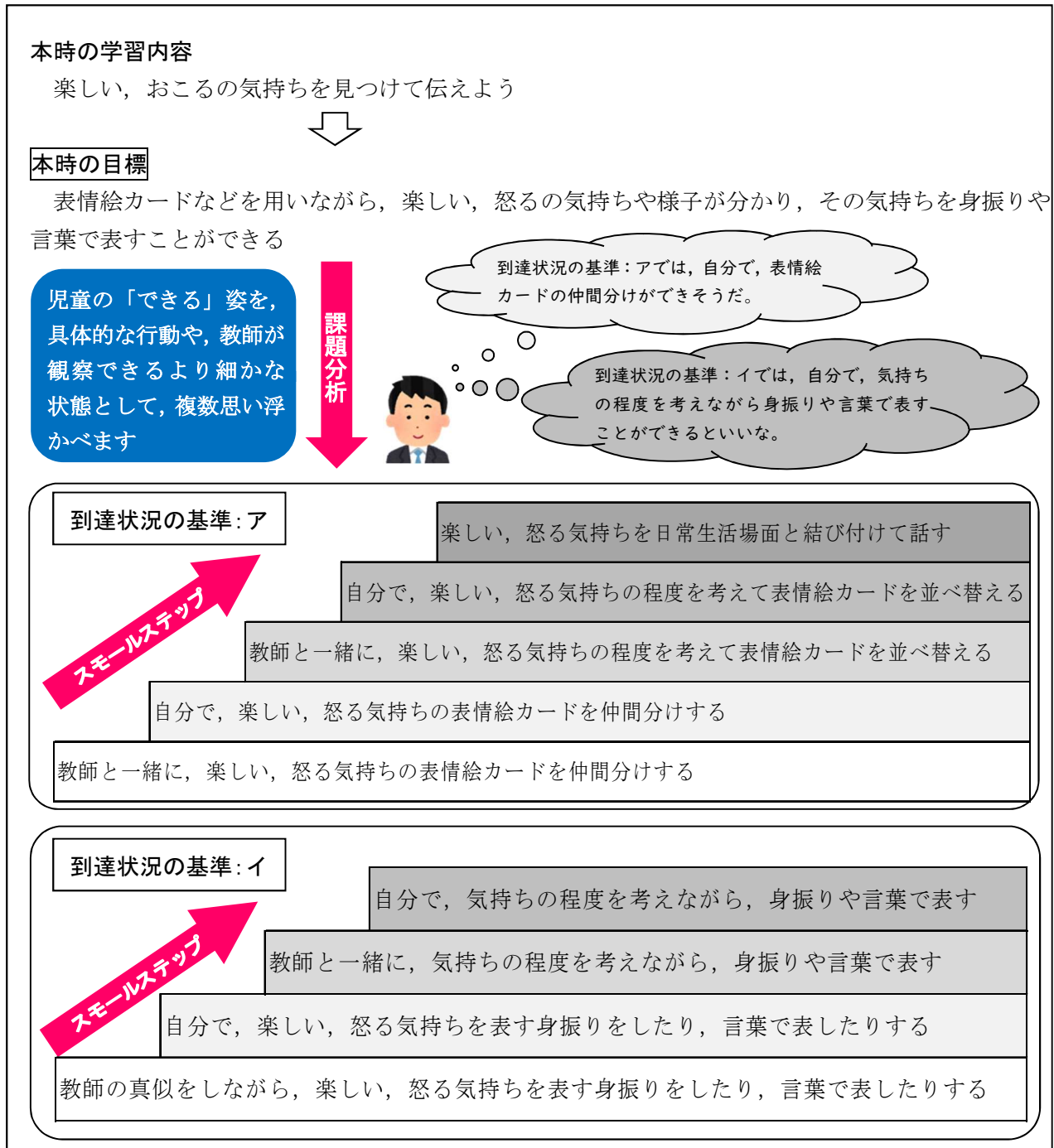
○ 指導計画（全5時間）

- ・うれしい、悲しいの気持ちを見つけて伝えよう
- ・楽しい、おこるの気持ちを見つけて伝えよう・・・**本時**
- ・こわい、しんぱいの気持ちを見つけて伝えよう
- ・「気持ち探検地図」を完成させよう
- ・「気持ち探検地図」を友達に紹介しよう

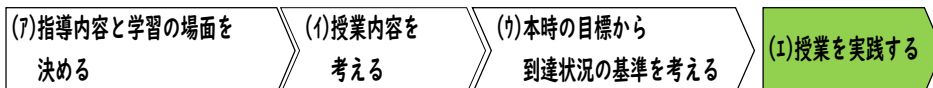


(ウ) 本時の目標から到達状況の基準を考える

- 本時の目標から、対象児童の「できる」姿を複数思い浮かべ、対象児童の実態に近い「できる」姿から段階的に積み上げる



本時の目標から、課題分析とスモールステップを参考にして、2つの到達状況の基準ア、イを設定しました。その際には、対象児童が、誰と、どのような状況で活動すれば到達できるのかを複数考え、到達状況の基準としました。



(エ) 授業を実践する

○ 本時の目標

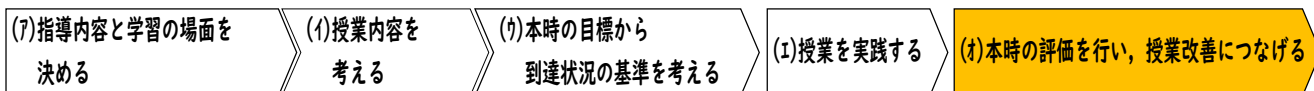
表情絵カードを用いながら、楽しい、怒るの気持ちや様子が分かり、その気持ちを身振りや言葉で表すことができる

○ 本時の展開 (2 / 5)

◎到達状況の基準から評価する

学習活動	教師の支援	評価・備考
1 本時のめあてを知り、学習に見通しをもつ	・前時の学習を思い出させながら、本時のめあてと学習活動について確認させる	活動表
2 探検その① 気持ちカードを使って探検する	・6枚の表情絵カードを見比べさせながら、同じ気持ちの仲間同士のカードを集めていくように言葉を掛ける ・顔の部分に注目できるように、言葉を掛ける ・仲間分けした気持ちの名前を教師と一緒に確かめる ・「楽しい」「怒る」気持ちは、どのような場面のか、気持ちの程度を比較させながら、表情絵カードを並べ替えさせていく ・本児の考えに適宜共感・賞賛する	表情絵カード ◎評価：ア
3 探検その② 気持ちを表す身振りや言葉を使って探検する	・表情絵カードで考えた気持ちを、言葉や体を使って表すように言葉を掛け、様子を観察する ・言葉や身振りで表わそうとしていることを賞賛する ・教師も一緒にアイデアを出しながら、やりとりを楽しむ ・人の気持ちは、顔の動きや体の動きに表れるということについて話をしながら、伝える楽しさを味わわせる	◎評価：イ
4 「気持ち探検地図」を作る	・「気持ち探検地図」を作ることを伝える ・本児と一緒に手順を確かめる ・表情絵カードを「気持ち探検地図」の上に貼るように促し、活動を見守る ・活動中は適宜共感・賞賛し、完成したことを一緒に喜ぶ ・教師と一緒に探検地図を見ながら、分かったことや思ったことを振り返らせる	探検地図のり 色鉛筆等
5 本時の学習を振り返る	・感想についてコメントし、気持ちの学習ができたことを賞賛する ・次時の予告をする	

🏠 本時の学習指導案へ



(オ) 本時の評価を行い、授業改善につなげる

step1 到達状況の基準から、本時の目標に対する評価を行う

評価の基となる対象児童の様子	到達状況
<ul style="list-style-type: none"> ・「ちょっと」「いっぱい」などつつぶやき、自分で気持ちの程度を考えながら、素早く表情絵カードを並べ替えることができた ・並べ替えた後、自分が楽しかったとき、怒ったときを思い出して、教師に話すことができた ・「気持ち探検地図」の余白に「ゲームをして楽しい」と書き込んでいた 	ア 楽しい、怒る気持ちを日常生活の場面と結び付けて話す
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいときは「楽しそう」と言葉にするものの、体を使って表現するような動きは見られなかった ・怒ったときは、「机を叩く」「逃げる」「隠れる」と言葉にし、その際、実際に机を叩いてみせたり、教室の隅に隠れたりする動きができた ・「気持ち探検地図」が完成したら、宝箱にたどり着くのかを気にしていた 	イ 自分で、楽しい、怒る気持ちを表す身振りをしたり、言葉で表したりする

step2 評価を基に授業を振り返り、本研究における6つの授業改善の視点に沿ってチェックし、改善の内容・方法を具体的に考える

チェック	授業改善の視点	改善の内容・方法
	目標の設定	
	学習内容の設定	
✓	活動の場	・教室の他にも活動できる場所を本児に提案する
✓	教材・教具	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋紙を用意することで、思い出した経験を自由に書くことができるようにする ・「お宝ゲットカード」を用意することで、学習への意欲が続くようにする
✓	教師の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の動きを真似させるなどして、いくつかの動きを提案する ・本児が、書くことに対して負担を感じている様子が見られたときは教師が手助けをする
	その他	

step3 前時の改善点を取り入れ、次時の授業を実践する

○ 次時の目標

表情絵カードなどを用いながら、こわい、しんぱいの気持ちや様子が分かり、その気持ちを身振りや言葉で表すことができる

○ 次時の展開（3／5）

学習活動	教師の支援（太字は改善の内容・方法）	授業改善の視点
1 本時のめあてを知り、学習に見通しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を思い出させながら、本時のめあてと学習活動について確認させる ・活動内容を書いたプリントを使って、見通しをもたせる ・本児と一緒に絵本を読みながら、活動への意欲を促す 	
2 探検その① 気持ちカードを使って探検する	<ul style="list-style-type: none"> ・6枚の表情絵カードを見比べさせながら、同じ気持ちの仲間同士のカードを集めていくように言葉を掛ける ・「こわい」「しんぱい」の気持ちはどのような場面のか、気持ちの程度を比較させながら、表情絵カードを並べ替えさせていく ・本児の考えに適宜共感・賞賛しながら話を聴く 	
3 探検その② 気持ちを表す身振りや言葉を使って探検する	<ul style="list-style-type: none"> ・表情絵カードで考えた気持ちは、言葉や体を使って表すと、どのようになるのかを尋ねる ・体を動かす場所の提案をする ・言葉や身振りで表わそうとしていることを賞賛する ・アイデアが思い付かない様子であれば、教師の動きを真似させるなど、いくつかの動きを提案してみる ・顔の部分や体の動きに注目できるように、言葉を掛ける ・人の気持ちは、顔の動きや体の動きに表れるということについて話をしながら、伝える楽しさを味わわせる 	<p>←活動の場</p> <p>←教師の関わり</p>
4 「気持ち探検地図」を作る	<ul style="list-style-type: none"> ・「気持ち探検地図」が完成することを伝え、意欲を喚起する ・付箋紙を用意し、自分の考えを書くように促す ・活動を見守りながら、適宜共感・賞賛する ・本児が、書くことへの負担を感じている様子であれば、教師が手助けをする ・「気持ち探検地図」の完成を一緒に喜び、用意しておいた「お宝ゲットカード」を提示する 	<p>←教材・教具</p> <p>←教師の関わり</p> <p>←教材・教具</p>
5 本時の学習を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容を示したプリントを一緒に見ながら、今日の学習でできたことを賞賛する ・次時の予告をする 	



授業後の対象児童の姿

- ・表情絵カードの目や口元の様子を比較しながら、一人で「こわい」と「しんばい」の気持ちに分け、気持ちの程度を考えて並べ替えることができました。
- ・「怖いときは逃げる」と言って、教室から出て行き、廊下の端や図書室の本棚に移動していました。
- ・「気持ち探検地図」が完成し、「お宝ゲットカード」がもらえたことを喜んでいました。
- ・「6この気持ちを勉強した」「〇〇な気持ちになったよ」など、自ら教師に伝える様子が見られました。

まとめ

○ 成果

- ・「授業づくりナビ」に沿って授業づくりを進めたことで、対象児童の自立活動の指導目標や指導内容に沿った授業を実践することができました。
- ・『「～できる」で分けた指導内容』について、課題分析を参考にしたことにより、対象児童にとって必要な学習内容が整理され、題材の設定や教材の選定、授業の組立て方等について具体的に考えることができました。
- ・到達状況の基準を考える際、課題分析とスモールステップを参考にして対象児童の実態に近い「できる」姿から段階的に積み上げて設定したことにより、授業中における対象児童の様子を基に、評価することができました。
- ・評価を基に授業を振り返る際、本研究における6つの授業改善の視点に沿ってチェックしたことにより、授業改善の内容・方法について整理することができました。そして、それらを次時の授業の中に取り入れることで、対象児童の「できる」を増やす授業づくりにつながっていくことを実感できました。

○ 課題

- ・『「～できる」で分けた指導内容』から学習内容を考える際に、対象児童の発達の段階に即した学習内容であるか、学習内容同士の関連付けが図られているかを整理して考えることに、難しさを感じました。今後は、年間行事予定や自立活動及び各教科等の年間指導計画などとの関連を図りながら、取り扱う時期についても意識して取り組んでいきたいと考えます。
- ・対象児童が、自立活動の時間で学んだことを、交流学級の学習や生活の場面で生かすためには、自立活動の時間における指導の評価を、個別の指導計画の中に具体的に明記しておくことが大切だと考えます。その際には、交流学級の担任と一緒に、対象児童の自立活動の指導目標や指導内容について情報を共有しながら、一貫した指導を行うことが大切だと考えます。